

産婦人科

I. プログラムの名称

国際医療福祉大学病院産婦人科研修プログラム

II. プログラムの目的と特徴

本プログラムは、初期2年間の研修中の選択ローテーション、初期研修修練後の後期研修用のためのプログラムで、初期臨床研修の参考にもなるように作成されている。本プログラム終了後には産婦人科認定医を取得できる技量と経験をつめるように計画されている。

選択ローテーションおよび初期臨床研修時に習得すべき救急・プライマリ・ケアに必要な項目は診療項目チェックリストに（R）で示している。

III. プログラム責任者、指導医、および施設認定

- 1) 責任者 大和田倫孝 産婦人科部長
国際医療福祉大学教授
日本産科婦人科学会専門医
- 指導医 松田義雄 産婦人科部長
国際医療福祉大学教授
日本産科婦人科学会専門医
- 2) 施設認定 日本産科婦人科学会卒後研修指導施設

IV. 教育課程

1) 研修内容、期間と到達目標

2年間の初期研修終了後、本プログラムによる研修を開始する。卒後4年目で、日本産科婦人科学会専門医の取得を目標とする。

2) 診療体制

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来	外来	症例検討会	外来	症例検討会	外来
			外来		外来	
午後	外来	外来	手術	外来	手術	外来
					術前検討会	

V. 産婦人科診療項目チェックリスト

項目	習得した
産婦人科診療に必要な問診を行い診療録が記載できる	
内診・双合診・膣鏡診などの診察ができる	
婦人科	
経膣超音波断層法・経腹超音波断層法により子宮・卵巣卵管の器質的異常の有無を診断できる	
産婦人科的な CT・MRI 検査が読影できる	
細胞診・組織診を行い診断できる	
コルポスコピー・腫瘍マーカーの診断ができる	
性行為感染症の診断・治療ができる	
産科	
妊娠初期の診断ができる	
超音波断層法による胎児発育および形態異常の診断ができる	
切迫流産・切迫早産の診断と治療ができる	
妊娠中毒症の診断と管理ができる	
合併症妊娠の診断と管理ができる	
胎児心拍数計測の判読ができる	
分娩介助ができる	
産褥管理ができる	
新生児管理ができる	
手術	
術前・術後の全身管理ができる	
病名・術式・麻酔方法・手術のリスクについて患者・家族に説明ができる	
主治医として以下の手術が執刀できる	
子宮筋腫核出術	
子宮膣部円錐切除術	
卵巣腫瘍摘出術	
附属器摘出術	
子宮頸管ポリープ切除術	

流産手術	
帝王切開術	
子宮頸管縫縮術	
産婦人科救急医療	
子宮外妊娠の診断ができる	
卵巣出血の診断ができる	
卵巣腫瘍捻転の診断ができる	
骨盤腹膜炎の診断ができる	
その他	
保険制度について理解しレセプトの点検ができる	
インフォームドコンセントについて理解し実行している	